

「北極圏旅行記 2017 夏 (18)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋
～7/29 最果てのÅ村へ(2)～

Å村は、スウェーデンのルーレオを起点とする欧州国際国道E10号線の終点である。Åは、Aの上に○(リング符号)がついた特殊文字で、主にノルウェー語、スウェーデン語、デンマーク語で使われる。小文字ではåと表記され、いずれも「オー」と発音される。ノルウェーではこのほかにも、ÆというAとEがくっついた特殊な文字もあり、地名にもこの文字が見られる。



Å村の「Å」は、古い北欧語(ノルド語)で「小川」を意味するという。この地名が最初に使われたのは16世紀頃らしい。初めて人が住みついた場所に地名を付す場合、その土地の地勢や地形をもとにするのは当然のことだろう。アイヌ語やサーミ語の地名も、ほぼ例外なく地勢や地形に由来し、それに忠実である。

Å村は、世界にいくつかある「一文字だけの地名」の一つとして有名である。ただ、Åは、ヌールラン県モスケネス郡の一寒村に過ぎない。またスウェーデンにもÅという地名は存在する。大きな自治体としては三重県の津市が「最も短い地名」として、ギネスブックに登録されている。「津」はローマ字表記では「Tsu」だが、英語表記では「Z」の一文字になるらしい。

奇しくも、AとZが世界一に名を連ねている。「世界一短い地名、ÅからZへの旅」なんてのはどうだろう? いや、これは面白い。私は帰国してすぐに津市に行かなかったことを、今頃悔やんでいる。



それにしてもこのÅ村の標識、実にステッカーだらけである。最初はポールの部分だけだったようだが、それも一杯になり、ついには標識本体にまでステッカー攻撃が及んでいる。これは、国道に設置された公共物なので、これは良くないことだが、何となく気持ちはわかるような気がする。



「ぐんまちゃん」のステッカーを貼ったらこんなふうになるだろう。ステッカーは持っていなかったし、もし持っていたても、もちろん貼らなかつただろう。実はこのÅ村の標識は、過去に盗難の被害に遭っているという。心ない旅行者もいたものである。



Å 村の標識から数分で、E10号線は、最後のトンネルに入る。このトンネルの出口が国道の終点である。



トンネルをゆっくり抜けると、ロータリーと駐車場になっていて、丘の上にあるÅ村の全体を見渡すことができる。Å村はかつて、干し魚を造る小さな漁村だった。しかし「ロフォーテン最果ての村」「E10号線の終点」「世界一短い地名」などの要素が重なって、次第に観光客が増えていった。大型バスも乗り入れるようになり、村では渋滞やすれ違い困難が多発。スムーズに折り返せるように、このトンネルを造ったのだという。村民にとっては何とも迷惑な話だが、よく考えると、私もその「迷惑者」の一人ということになる。



Å村の先にもロフォーテンの陸地は続いているが、駐車場から先は徒歩でしか通行できない。私は少し岩の遊歩道を歩いてみた。さすがは氷河の削り残しだけあって、非常に硬い岩盤である。ここも北極圏なので樹木はほとんどなく、岩の表面には地衣類が見られる。私はやや風化した露頭（岩が露出した地層）から、チズゴケのついた薄い岩を剥がして、持ち帰ることにし

た。Å村までやってきた記念である。転石ではどこの岩だかわからない。しかし露頭から剥いだ岩なら、まちがいなくÅ村の土地を構成していた岩の一部とわかる。この岩片は、帰国後に表面に、

Å i Lofoten Norge 29 / 7 / 2017

67° 53' N 12° 59' E

と白インクで書いて、本棚に飾ってある。石が好きな私にとっては、いい思い出になった。



岩の丘の上から、もう一度Å村を眺めてみた。日本からはあまりにも遠く、次はいつ来られるかわからない。しかし、是非もう一度訪ねたいと思った。

【出国前に描いたÅ村の絵と文章】



「最果て」を旅したいという気持ちは 私の中のどこかに常にあります ヨーロッパ最北端のノールカップ（北岬）や 最西端のロカ岬には行きました ここ「Å」もその一つです ノルウェーのフィヨルド海岸線から 長く突き出した列島がロフォーテン諸島 その一番南の先端がÅ村です 「オー」と発音し 「津」や「イ」と並んで 世界一短い地名の一つです 私はどうしてもこの村に行ってみたくて思っています